

Efficacy of S-1 monotherapy for older patients with unresectable pancreatic cancer: A retrospective cohort study

原野, 由美

<https://hdl.handle.net/2324/2236077>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名：原野由美

論 文 名：Efficacy of S-1 monotherapy for older patients with unresectable pancreatic cancer: A retrospective cohort study

(高齢の切除不能膵癌患者への S-1 単独療法の効果に関する後ろ向きコホート研究)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

膵癌は高齢者に発症することの多い予後不良な悪性腫瘍である。膵癌の早期発見は多くの場合において困難であり、患者の多くは化学療法を治療の選択肢として提示されるが、高齢の切除不能膵癌患者の化学療法に関するエビデンスはまだ十分に確立されていない。本研究で、我々はゲムシタビンとの比較において、経口のフルオロウラシルである S-1 の第一化学療法薬としての有用性を検討した。研究デザインは後ろ向きコホート研究で、2010 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日に膵癌と診断された患者で手術を受けず、S-1 もしくはゲムシタビンを一次化学療法として選択した 75 歳以上の患者 680 名を対象に分析を行った。使用したデータベースは、福岡県後期高齢者医療広域連合の請求データであり、主要アウトカムは、診断から 3 年以内の死亡、副次アウトカムは、無増悪生存期間の代替指標として第一化学療法から二次化学療法までの時間を生存分析で検討した。本研究の対象者は 680 名で、S-1 群は 240 名、ゲムシタビン群は 440 名であった。対象者の 92.5%である 629 名が診断から 3 年以内に死亡していた。S-1 群の 3 年以内の死亡リスクは、カプランマイヤー曲線において有意差を認めた ($p < 0.0001$) (図 1)。年齢、性別、チャールソン併存疾患指数で調整した多変量コックス比例ハザード解析においても、S-1 群の 3 年以内の死亡リスクは、ゲムシタビン群と比べて有意に低かった (ハザード比 (HR) 0.695, 95%信頼区間 (CI): 0.588-0.821, $p < 0.001$)。二次化学療法までの時間に関してはカプランマイヤー曲線、上記の多変量解析において有意差を認めなかった (HR 0.968, 95%CI: 0.708-1.324, $p = 0.838$) (図 2)。感度分析として、放射線療法を併用した対象者を除外した分析 (HR 0.746, 95%CI: 0.622-0.895, $p = 0.002$) (図 3)、二次化学療法を受けた対象者を除外した分析 (HR 0.628, 95%CI: 0.509-0.776, $p < 0.001$) (図 4)を行ったが、いずれも本分析に矛盾しない結果を示しており、S-1 単独療法は 75 歳以上の切除不能膵癌患者の第一化学療法の選択肢として有用である可能性が示唆された。

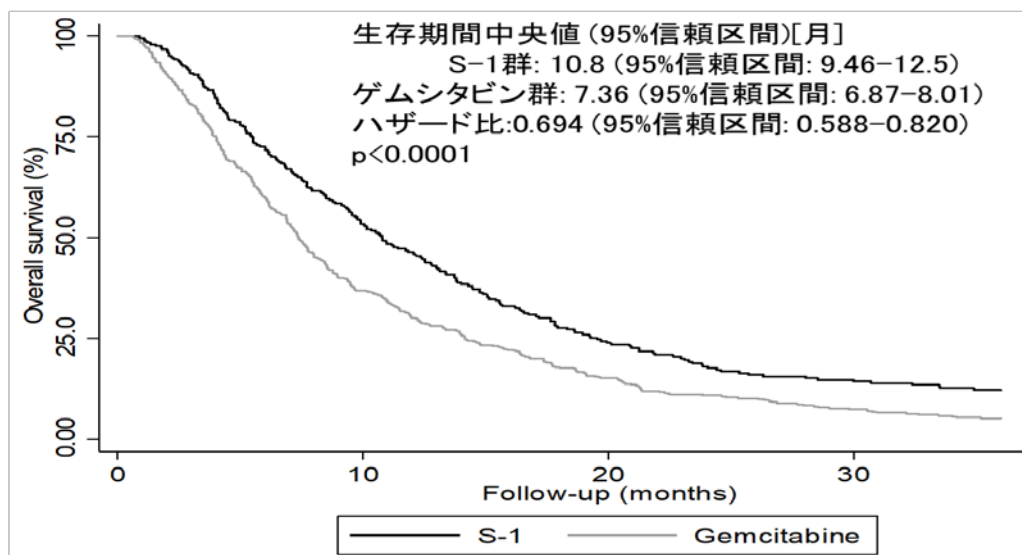


図1. 全生存期間を比較したカプランマイヤー曲線
 P値はログランクテストで算出を行った

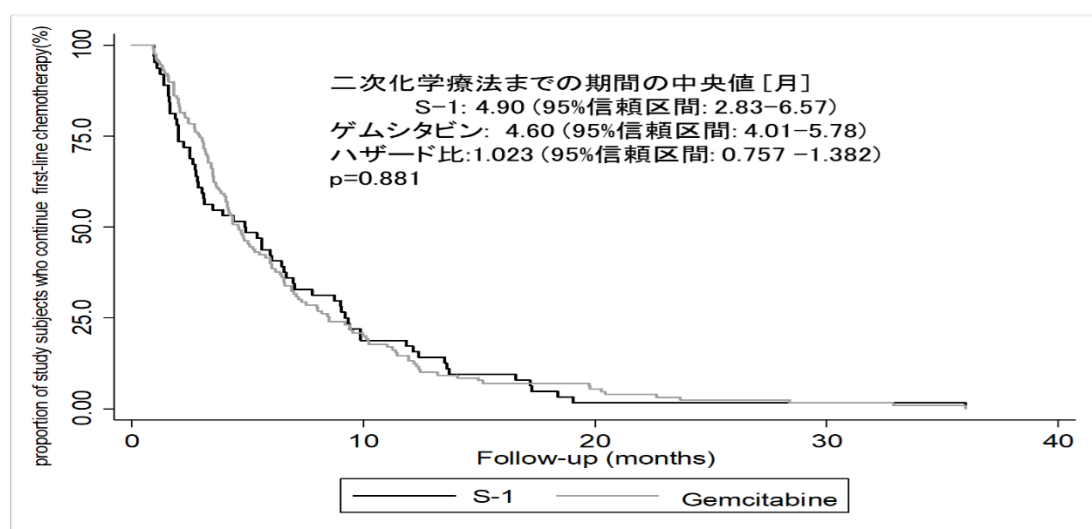


図2. 二次化学療法までの期間を比較したカプランマイヤー曲線
 分析で28日以内に治療を中断した患者は除外している。
 P値はログランクテストで算出を行った

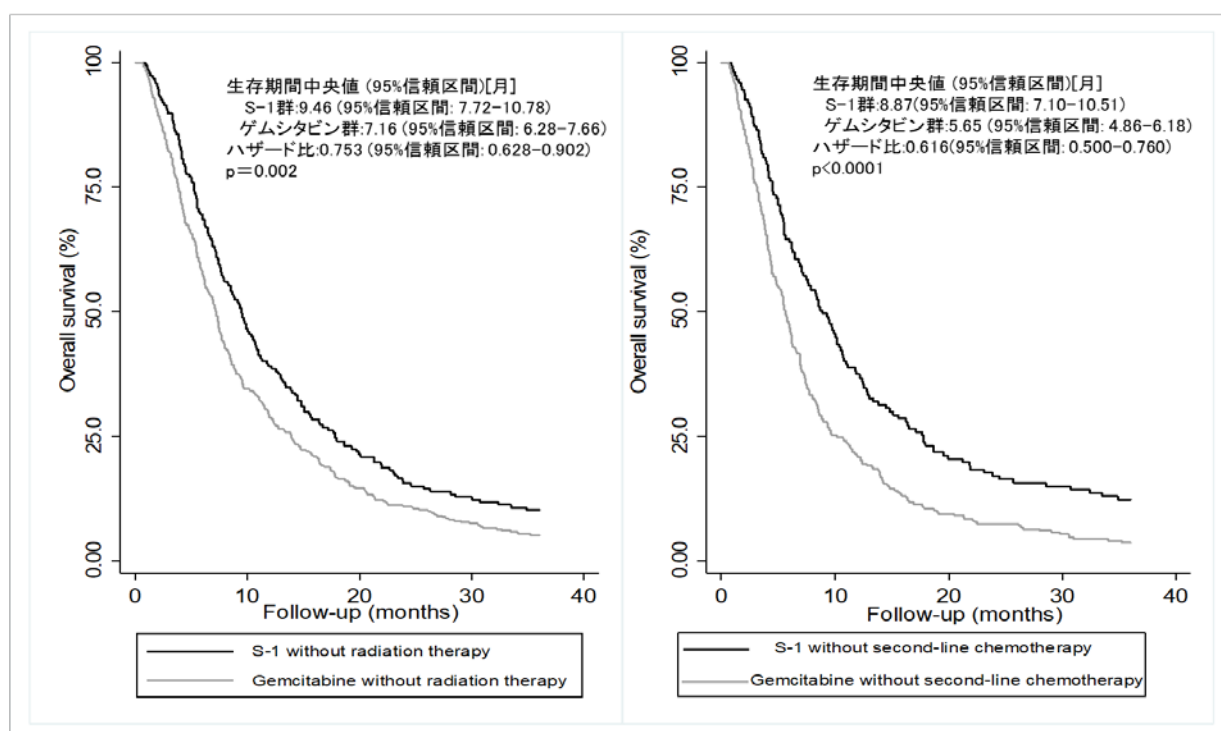


図3. 感度分析に関するカプランマイヤー曲線
 化学療法のみを受けた患者に関する感度分析
 P値はログランクテストで算出を行った

図4. 感度分析に関するカプランマイヤー曲線
 一次化学療法のみを受けた患者に関する感度分析
 P値はログランクテストで算出を行った